

# SENBOKU New Design

かつてのベッドタウンから、より豊かに暮らせるまちへ

～泉北ニュータウンの価値を高め、次世代へ引き継ぐ～



2021年5月  
堺市

# 1. 分野別の取組方針について

泉北ニュータウンを、これまでのベッドタウンとしての位置づけから、魅力があふれ暮らしやすく、様々な都市機能が集積し、多様性を受け入れ、多様な暮らし方ができる「より豊かに暮らせるまち」とするため、4つの基本方針の実現に向けて、取り組むことが必要な12の分野を設定し、取組方針、取組例を整理しました。

## 基本方針1

多様な世代が住み、働き、安心して暮らせる



1 住まい



2 働く場



3 子育て  
・教育



4 健康長寿

## 基本方針2

豊かな緑空間と多様な都市機能が調和したまち



5 緑空間



6 都市機能



7 交通

## 基本方針3

住民、企業、大学、団体など様々な主体と想いを共有し創造する



8 市民交流



9 共創

## 基本方針4

持続可能なまちをめざし、ICT等の先端技術を用い、社会資本を活用・運営する



10 スマートシティ



11 プロモーション



12 都市経営



関連する SDGs



【背景】

- 特長**
- ・各住区に公園や緑道など、様々な活動ができる場所があり、外にでかけたくなるような魅力的な環境が整っている。
  - ・泉ヶ丘駅前地域に近畿大学医学部・近畿大学病院が開設予定であり、大学の先進医療の活用や健康長寿など、市民福祉の向上に関する取組が期待される。
- 課題**
- ・泉北ニュータウン開発に伴い一斉入居した世代の高齢化が進んでおり、高齢者をはじめすべての住民が健康で安心して暮らせるための取組が求められている。

10年後のビジョン

公園や緑道ネットワークの特長を活かした健康長寿の取組が住民に広まっている。ICT等の活用により、住民が健康に暮らせる環境整備が進んでいる。近畿大学医学部などの大学との連携が進み、住民が安心して健康に暮らすことができている。近隣センターに人が集まり、会話するなどにより地域コミュニティが活発になり、健康長寿の取組が展開されている。

1

健康寿命延伸の取組

取組方針

泉北ニュータウン周辺の大学との連携を深め、ICTを活用するなど、様々な健康長寿延伸の取組を促進する。また、近畿大学医学部・近畿大学病院と連携し、先進医療に関する情報の地域へのフィードバックなどの取組を促進する。  
地域での健康で快適な暮らしを守るため、近畿大学病院などの高度医療を担う医療施設と地域の診療所などの「かかりつけ医」との連携を支援する。

取組例

- ・ 近畿大学医学部などの大学と連携した地域向け講座、体験プログラムの取組を促進する。
- ・ 「あるく」「しゃべる」「たべる」を活用した多様なフレイル<sup>※</sup>予防講座を提供する。
- ・ 人が集まる地域コミュニティの核となる近隣センターを中心に健康長寿の取組を展開する。
- ・ 泉北ニュータウンに豊富に整備されている公園・緑道を活用して、健康遊具の設置など、住民の健康増進に取り組む。
- ・ 緑道ネットワークの特長を活かし、健康長寿に効果があるウォーキングやジョギング活動を促進する。
- ・ 農村地域で生産される農産物を活用した地産地消による「食育」を推進する。
- ・ ICT 活用による健康分析や遠隔健康相談に取り組む。
- ・ 24 時間見守りや在宅コミュニケーションロボットなどの ICT の導入に取り組む。

関連事業

- 5.緑空間「緑豊かな公園や緑道を活かした暮らし」
- 5.緑空間「周辺の農村地域との連携や地産地消の推進」
- 6.都市機能「多様なライフスタイルに応じた駅前エリアの機能再編」
- 6.都市機能「時代の変化に対応した近隣センターへの機能再編」
- 9.共創「大学との共創」
- 10 スマートシティ「多様な世代の健康増進と身近な働く場の創出」

## 2 健康で安心して暮らし続けられる住まいの確保、住み替えの推進

### 取組方針

住みなれた地域で、いきいきと健康に住み続けることができるよう、住まいの確保や住み替え制度の構築を行う。

#### 取組例

- ・ 親世帯と子世帯が同居又は行き来できる距離で安心して暮らすことのできる近居を促進する。
- ・ 公的賃貸住宅の地域医療福祉拠点化(生活支援アドバイザーの配置、健康寿命サポート住宅の供給、移動販売による買物支援など)を推進する。

関連事業 1.住まい「多様な住宅供給と既存住宅の循環する仕組みづくり」

## 3 環境やひとにやさしいまちの推進

### 取組方針

将来にわたり、自宅で快適に住み続けられるように、住宅のバリアフリー化、省エネルギー化を促進する。また、公的賃貸住宅の建替えにおいては、ユニバーサルデザイン※に基づきすべての人が生活しやすい住宅の整備を推進し、既存の公的賃貸住宅についても、高齢者や障害者のニーズに対応したバリアフリー化を促進する。歩道や公園など、公共施設の改修・更新を行う際には、各施設のバリアフリー化・ユニバーサルデザインに基づく施設整備を進める。

#### 取組例

- ・ 公的賃貸住宅の再編に伴う活用地における ICT を活用した環境配慮型の魅力ある住宅(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)※)の導入を検討する。
- ・ 建築・住宅関係団体などと連携した住宅のバリアフリー化、省エネルギー化改修を促進する。
- ・ 既存の公的賃貸住宅については、中層住宅へのエレベーター設置や共用部分のスロープ設置などを、住戸内については改修・改善の際に手すり設置や段差解消などを実施する。

関連事業 1.住まい「多様な住宅供給と既存住宅の循環する仕組みづくり」  
10 スマートシティ「多様な世代の健康増進と身近な働く場の創出」

泉北ニュータウンの  
先行型事例



### 公園を活用した「健康づくり」 (南区三原台)

楽しみながら「健康」となるよう、校区内の公園に健康遊具を設置し、それらを結ぶ複数のウォーキングコースを設定し、身体を動かす機会を増やす取組を推進。

他地域の  
先行型事例



### 地域医療福祉拠点化 (UR 都市機構)

地域の関係者と連携・協力しながら、豊かな屋外空間を備え、多くの方々が住まう団地を“地域の資源”として活用し、子育て、介護などのために、地域に必要な住宅・施設・サービスの整備を推進する取組。



### 健康屋台 (千葉県千葉市)

産・官・学・地域が連携した地域の活性化、地域の健康増進を目的とした取組。身近な健康相談の場を作り、保健師による健康指標のチェックとともに、健康データを活用した研究開発に取り組んでいる。

「健康屋台」は株式会社ミライラボの登録商標です。